

ホームページへの掲載		
月	日頃	掲載予定

岐阜県立郡上特別支援学校

校長 高井 繁喜
 学校住所 岐阜県郡上市大和町栗巣32-1 電話 0575-88-3020

- 1 会議の名称 令和2年度岐阜県立郡上特別支援学校第2回学校評議員会
- 2 会議の構成
- | | | |
|-----|-------|------------------------------|
| 評議員 | 上村 均 | 地元企業代表
(有)ケイズ 代表取締役 |
| | 田中 栄子 | 地元企業関係
(有)ノバネットワークス 代表取締役 |
| | 増田 雅幸 | 地元住民代表
郡上市大和町栗巣 |
| | 村瀬 一将 | 福祉関係
郡上市社会福祉協議会 在宅福祉課主任 |
| | 山田 泰子 | 地元住民代表
郡上市八幡町那比 |
- (委員名は五十音順)
- | | | |
|-----|-------|---------|
| 学校側 | 高井 繁喜 | 校長 |
| | 瀧下 博幸 | 副校長 |
| | 青木 博章 | 事務部長 |
| | 廣瀬 雅行 | 教頭 |
| | 遠藤 衣代 | 小、中学部主事 |
| | 林 哲治 | 高等部主事 |
| | 上村 篤 | 教務主任 |
- 3 会議の目的 学校運営の改善に資する意見や助言を幅広く集めるため、学校評議員を設置、運営する。
- 4 会議の開催
- 新型コロナウイルス感染症対策のためオンラインによる開催とした
- (1) 日時 令和3年2月26日(金) 10:00~11:40
- (2) 会場 岐阜県立郡上特別支援学校大和校舎
- (3) 出席 評議員5名と学校側7名が出席
 ※評議員は、リモートによる参加
- 5 会議の概要
- (1) 議題
- ①令和2年度の教育の実践について
 - ②令和2年度各部の教育実践について
 - ③令和2年度学校評価について
 - ④令和2年度高等部作業学習新製品について
- (2) 意見交換
- 6 会議の内容
- (1) 議題
- ①令和2年度の教育の実践について
- ・高等部では、感染防止対策のため、進路に関する取組の回数や時期を変更して実施した。3年生の進路は、郡上市内への一般就労やB型就労継続支援事業に決定した。また、自動車免許取得に向けて取り組んでいる。
 - ・一人一台の学習用タブレットが導入され、児童生徒は自分専用のタブレットを使用して学習に取り組めるようになった。新しい学習用ツールとして活用し、教員も研修し活用を進めたい。
- ②令和2年度各部の教育実践について
- <高等部>
- ・現場実習は、計画を変更しながら実施した。2年生は2回目の現場実習を中止したが、次年度の実施に向けて準備している。

- ・保護者向けの作業製品販売会を実施した。郡上高等学校での注文販売も行った。
- ・出前清掃は、フェイスガードの使用など感染症対策をとりながら地域の施設で実施した。
- ・3年生の修学旅行は、2泊3日の沖縄から、日帰り東濃方面へ変更し実施した。岐阜県の魅力に気づき、ふるさと教育の機会となった。
- ・オンラインを活用して郡上高等学校との交流及び共同学習を実施した。

<小学部、中学部>

- ・感染防止対策のため、学校行事を変更し、校外学習を工夫して学習効果を上げた。
- ・地域の方の指導で米作りに取り組んだ。稲刈り、はさがけ、脱穀を体験し、収穫した米の調理活動は中止したが、藁を活用して正月飾り作りを行った。
- ・小学部6年生の修学旅行は、日帰り高山方面へ出かけた。
- ・ICTを活用し、オンライン学習や、地域の小中学校とのオンライン交流を実施した。
- ・臨時休業中の学習支援だけでなく、不登校傾向のある生徒への対応にもオンラインを活用した。

▽意見1：修学旅行では、どのような新型コロナ感染防止対策を行ったのか。

▼回答：10月、11月に実施したため、比較的新型コロナ感染状況は落ち着いていたが、貸切バスの使用、個室での食事などの対策をとった。

▽意見2：小中学部の米作り体験では、早めに変更案を立て、工夫した取組ができていた。

▽意見3：校内ではどのような感染防止対策を行っているのか。

▼回答：登校時の健康チェック、学習時の間隔確保、手洗いと手指消毒の励行、職員による給食配膳、黙食、1日2回の校内消毒を実施している。各教室にサーキュレーター、空気清浄機等を設置し、換気の効率を上げた。

③令和2年度学校評価について

<アンケート結果より>

- ・33項目すべての質問で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な回答の割合が70%以上であった。
- ・肯定的な回答の割合が70%台に留まっている項目は、「わからない」という回答も多い。
- ・「わからない」という回答の割合が20%以上の項目は「学校の先生は働き方改革に努めている」「学校の先生は、社会常識を身につけており、人間としても信頼できる」の2項目であった。
- ・学校方針、教員の愛情や熱意、児童生徒の生き生きとした活動等、学校教育の重要な項目において、肯定的な高い評価が得られた。

<アンケート集計を踏まえ「そう思わない」があった項目の対応について>

- ・「学校の教育方針や指導内容について保護者にわかりやすく伝えている」の項目は、ホームページに学習の様子を掲載し、日頃から連絡を密にとるようにする。
- ・「学校は、進路に関する連絡や情報提供を児童生徒や保護者に向けて適切に行っている」の項目は、進路通信を活用して進路情報を、高等部個別懇談において企業及び事業所に関する情報を提供していく。
- ・「児童生徒の実態を的確にとらえている」と「児童生徒一人一人に合った教材、教具が準備されている」の項目では、適切な目標と指導内容を検討する。目標と関連付けて使用する教材や教具を保護者に説明する。
- ・「学校は体罰の防止に努めており、子どもとの話の中、保護者同士の話の中に教員の体罰の話は出てこない」の項目では、いじめ調査、スクールカウンセラーによる面談の実施等について保護者に案内するとともに、保護者対象いじめアンケートを実施する。
- ・「学校の先生は、学校の行事やできごと、新型コロナ感染症を家の人にわかりやすく説明している」の項目では、保護者向けの文書の内容について、ホームルームの時間に生徒にも説明する。
- ・「学校の先生は、生徒たちの教育に熱心に取り組んでいる」「学校の授業はわかりやすく楽しい」の項目では、生徒一人一人に合った教材、教具や言葉掛けの工夫を行う。学習用タブレット等のICT機器を活用し、効果的な指導を工夫する。

<自己評価、学校関係者評価の報告について>

- ・『学校経営』の重点である「ふるさと教育や地域資源の活用と連動した学校づくりを推進した」については、小中学部では、地域の方と米作りの協働作業、「牧歌の里」や「清流長良川あゆパーク」での校外学習、中学部作業製品の市内の道の駅や銀行などへの納品など、ふるさとの良さを体感できる活動を行った。高等部では、地元企業の協力を得ながら現場実習や清掃活動、オンラインを活用した「郡上未来塾」、先輩と語る会など、地域社会と一体となった学校づくりを推進した。
- ・『教科指導』では、オンライン学習の体制を整え、休校中にはオンライン授業を実施した。また、

ンラインを活用して地域の小中学校、高等学校との交流を実施した。

- ・『進路指導』では、キャリアパスポートを作成し、生徒が自己理解を深め、自己肯定感と自信を高める進路学習の充実を図った。高等部では、キャリアパスポートを活用して現場実習の評価を作業学習につなげることができた。
- ・『生徒指導』では、問題行動、いじめ問題の早期対応に重点を置き、迅速な組織連携の中で対応を図った。スクールカウンセラーと連携し早期対応ができた。
- ・『健康教育』では、感染症の正しい理解と予防に重点を置いて指導し、児童生徒にマスクの着用や手洗いの習慣が定着した。保護者にも協力を求めた。

▽意見1：アンケート項目に、教員の人間性等に関する項目があり、回答が難しい。保護者、生徒への質問とは別に、学校評議員への質問を考えていただきたい。働き方改革を進めるためには、仕事を減らす必要がある。削るところは削る中でも、子どもたちに力を付けられるように工夫する必要がある。

▼回答：アンケート項目については、回答する方の立場で見直し、改善する。

▽意見2：人が成長するためには人との交流が大切である。地域、保護者などとの交流に関する項目について「あてはまらない」がついていない。学校の努力と取組成果がアンケート結果に表れている。

▽意見3：働き方改革において、職員の帰宅時間は早くなっているのか。数値を把握しているか。

▼回答：実際に職員の退勤時間は早くなっている。退勤時刻、残業時間をデータで管理して改革に取り組んでいる。

④令和2年度高等部作業学習新製品について

<スマートバックB>

- ・ナイロン生地を使用したエコバック。コンビニ弁当を水平に入れられる大きさのマチ付き。小さく畳んで止められるゴム付き。原価1個当たり500円。希望販売価格は600円。

<組み紐B>

- ・手織布ぼたん飾りが付いたゴム、2個セット。髪を束ねるゴム、ブレスレットとして使用。原価246円。希望販売価格は300円。

▽意見1：スマートバック600円は安く感じるが、100円均一でもこうした商品があることを考慮すると、600円でよい。

▼回答：原価に合った販売価格を設定している。

▽意見2：柄が良い。色違いで複数購入したいが、他の色もあるのか。内側にポケットがあると便利である。そうした工夫を生徒と一緒に考えることで、付加価値が高まる。

▼回答：色違いはある。注文販売を行っており、要望に応じて販売できる。色や製品の工夫についても授業の中で生徒と一緒に考えている。

(2) 意見交換

▽意見1：学校評価アンケートの職員の資質を問う項目について、少数派だが否定的な評価があることを「自己評価、学校関係者評価」にあげたほうがよい。校訓の「あかるく、たのしく、たくましく」と関連性があるアンケート項目を設定することで、目標達成が明確になるのではないか。

▽意見2：先日、郡上市内で障がいのある方々の作品展が開催された。これから社会に出ようとしている学校の児童生徒も、このようなものに触れ、刺激を受けてほしい。

▼回答：仕事だけでなく、音楽や造形などの才能を開花させることも学校として大切に、学校祭や作品展で情報発信していきたい。

7 会議のまとめ

第2回学校評議員会では、令和2年度教育の実践及び各部の実践の成果、令和2年度学校評価について様々なご意見をいただくことができた。また、作業製品の価格設定については適正であると承認された。

いただいたご意見を真摯に受け止め、来年度の学校運営に生かしていきたい。